

研修会に係る実践事例



推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。



品川区立台場小学校

【実践の概要】

- 夏季休業中に学校担当獣医師をお招きし、教員、保護者を対象に、ウサギの適切な飼育に関する研修会を実施しました。

あわせて、野生動物の生態や生息環境の変化などのお話を伺いました。



ウサギの適切な飼育に関する研修会

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 動物が持つウイルスや感染症の対策などについて、学校担当獣医師から専門的なお話を伺いました。
- 飼育動物の体調がおかしいなと思ったときや、亡くなってしまったときの対処法についての説明をしていただきました。

【教員の反応】

- 動物からの感染症についての知識をもっているのと、いないのとでは、児童の安全管理に大きな差が生じることを学びました。
- 学校飼育動物が体調不良になったときや、亡くなったときの対処の仕方を知っていると、いざというときに冷静に対応でき、安心して飼育活動ができることを実感しました。
- 学校担当獣医師から、定期的にウサギの健康状態をチェックしていただいていることで、獣医師の存在が身近になり、すぐに相談できる体制がとれていることに感謝しています。



大田区立赤松小学校

【実践の概要】

○ 研修会を開催し、学校担当獣医師から以下の3点について御講話いただいた。

① 学校で動物を飼育する意味

昔から生き物と共に生活をし、身近な生き物の死を経験してきたからこそ今の社会がある。しかし、現代は、生き物に触れ合う時間が少なく、死を経験する場も少ない。情操教育も含めて楽しみながら触れ合う時間が必要である。

② 学校で飼育するのに適している動物について

学校では、えさ代がかからず、困ったときに引き取ることができるような、飼育が難しい動物が向いている。また、寿命が長すぎず、短すぎないものがよい。これらの点において、モルモットは学校飼育に適している動物である。

③ 飼育するに当たっての教員の準備

生態を知り、野生動物について事前に調べておく必要がある。事前に調べておくことで、環境教育も行うことができる。

適した飼育の方法を見付け、児童が自らできるように工夫しておく必要がある。



モルモットの体の様子について

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

○ 事前に担当教員と学校担当獣医師とで、講話の内容について打合せを行いました。また、質疑の時間も確保することで充実した研修を行うことができました。質疑には、「夏季と冬季の長期休業に関する飼育について」と「獣医師との連携を図るためには、どうしたらよいのか。」というものがあり、休業期間の飼育については具体例を示し、獣医師との連携では獣医師会に連絡することを助言していただきました。

【教員の反応】

○ 担当の教員だけでなく、学校全体の教員が動物飼育について知る機会を設けることができよかった。また、「学校担当獣医師と連携を図ることで、動物飼育の必要性等視野を広げることができた。」等の声も聞かれました。



国立市立国立第二小学校

【実践の概要】

- 飼育委員会の児童を対象に指導・助言をしてもらう際、教員も同席して飼育方法や気を付けるべきことを教えてもらいました。また、教員を対象に動物飼育について実践的な話をしてもらいました。



学校担当獣医師に飼育の仕方や注意点を説明してもらいました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師との関係が深まったことで、ウサギの健康管理や環境整備について相談したり、何か異常があったときに対応していただいたりと、連携体制が一層強くなりました。

【教員の反応】

- これまで気にかけていなかった動物の管理方法について改めて考えさせられ、新たな対策を講じました。
- 夏の暑いときには、職員室にウサギを避難させ、面倒をみるようになりました。
- ウサギの飼育などを通して「命の大切さ」を考え、動物の命を尊重し大事にすること、ひいてはそれを投影して「自分の命の大切さ」を実感させる指導をしました。



武蔵村山市立第一小学校

【実践の概要】

- 夏季休業期間に、教職員へ向けて、学校飼育動物に対する研修会を実施しました。

学校担当獣医師から、飼育環境・衛生管理と、動物飼育の児童に与える影響について学びました。

【動物の五つの自由】

- ① 飢えや乾きからの自由
- ② 不快からの自由
- ③ 痛み、外傷や病気からの自由
- ④ 本来の行動する自由
- ⑤ 恐怖や苦痛からの自由

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師に定期的に学校を訪問してもらえることから安心して飼育活動をする事ができました。また、日常的な飼育活動に、学校担当獣医師からの助言があることで保護者からの信頼を得られます。アレルギーの問題や感染症などに対しても、心強いものがあります。

【教員の反応】

- 学校担当獣医師から指導を受け、学校での適正な飼育活動の重要性を知りました。
- 児童が安心して動物と関われるような環境整備や動物の福祉について理解し、今後の活動に生かすことができました。また、学級のアレルギー児童への対応についても情報共有をすることができました。



学校担当獣医師から教員への動物飼育講習会の様子



授業で動物について話す学校担当獣医師



教員の研修会のグループ討議の様子



多摩市立連光寺小学校

【実践の概要】

- 動物飼育について、管理職、飼育委員会担当教員、第1学年、第2学年担任が話を伺いました。パソコンを使い、図を中心にしたプレゼンを使ってお話していただきました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 事前に準備をしていただき、スムーズに研修を実施することができました。学校担当獣医師の皆さんは、診察の間に来てくださっており、お話を上手にまとめていただき、時間が長くないようにしてくださいました。

【教員の反応】

- 教員の感想として、お話いただいたことを、児童への指導や動物飼育の際の衛生管理などに生かしたいとありました。